

<テーマ>類推的思考を引き出し、自力解決を促す適用問題（東松島市立大塩小学校）

【ねらいと特色】 2年「くり下がりのあるひき算」

単元構成を工夫し、適用問題の時間を十分に確保することで、全員が「繰り下がり」のある引き算の筆算の仕方が身に付いたか確認し、学習したことが「わかった」という実感をもたせたいと考えた。さらに、新たな問いを引き出す多少の困難性のある適用問題を提示することで、児童全員に「学習したことを使えばできそうだ」という類推的思考を働かせて主体的・意欲的に課題解決に取り組み、自分の力で新しい問題を解決できたという達成感や自信をはぐくみたいと考えた。

○ 単元構成工夫

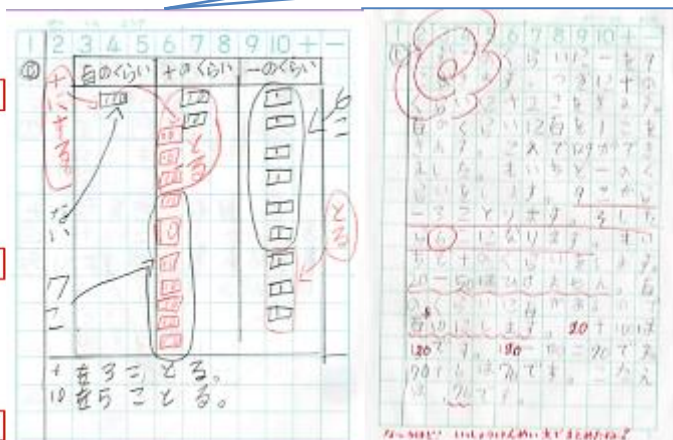
→ 自力解決・適用問題重視

○ 図や言葉で考えて表現する

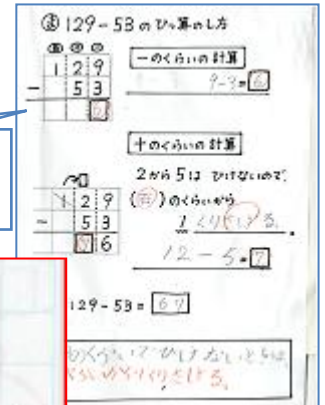
→ 自分の考えがはっきりする！

○ ペアによる言語活動

→ 自分の考えの正しさの確認！
→ 友達のよりよい考えの学び！

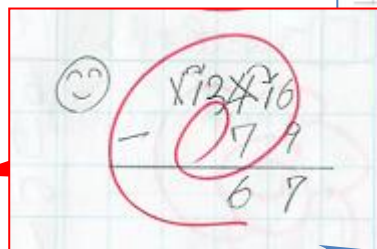


尊敬・信頼する大好きな担任からの一言は、自ら学ぶ大きなエネルギー！（生徒指導の機能）



○ まとめプリントで

→ 効率的に！



T「ちょっとむずかしいけど！できる？無理？」
C「できる！」…※「似ているのでできそう！」
T「やってみる？」
C「よっしゃー！」…「できたー！」
C「私もできたー！」
C「私もやってやる！」

※「できた！」の音が教室中からわき上がり、活気あふれる授業となった。また、悩んでいる児童は、友達に聞いたり（友達が説明したり）して、全員が「できた！」と満足していた。

「できるかな？」…「できる～！」
この適用問題が「新たな問い」を生み、教室中が盛り上がりました！

○ 問題の多少の困難性が、児童の主体性・意欲を引き出し、思考力等を育み、次の時間の課題把握と自力解決まで学習が進みました。

→ 学習した「繰り下がり」の考えを使うとできそうだ（類推的思考）
→ 〇から口は引けないから十の位から十借りてきて、…次に百の位から…（演繹的な思考）